

# 用水季報

令和2年10月 第3号  
発行元：美しい水の会  
連絡先 090-1993-5903  
<http://bunji-yosui.org/>



**用水通水状況：**7月1日、3日、7月7～9日の間、9月20日～25日まで砂川用水は止水しました。止水の原因は、いずれも昭島市と立川市の市境にある砂川用水取水口のごみ詰まりでした。

## 野中明さんの寄稿：「人との結びあいが楽しい農の日々」

私は今、国分寺地区の援農ボランティア、並木町の農業体験講座を支援し、市民の皆さまと“農”を楽しみ、皆と語らう時間を過ごしている。私は若くして農業に従事したが、農業が大変な作業と感じたことはない。

300年ほど前の新田開発の頃は、荒れ野の開墾、土壌改良、あるいは堆肥作りなど苦労の連続であっただろうことは想像できるが、私が農業を始めたころには、農地は整備され、五日市街道から玉川上水までの美しい畑で、陸稲、大麦、小麦、季節野菜、サツマイモなどを作り、堆肥づくりも楽しかった。

曾祖母の時代には、養蚕も手掛け12畳半の養蚕所が2つあり、子供の私がすっぽり隠れるほどの籠に繭をとり、品評会で表彰されたこともあった。養蚕も大変な作業だったろうが、曾祖母は皆の力を借りて、老体にもかかわらず1日養蚕にかかりきり、繭100貫（3籠分）を目標にして、それが達成できた時には、大喜びだった。「もう思い残すことはないだろう！」と私が声を掛けたら、怒られたことを思い出す。

昭和30年代だったろうか、ウドづくりも行い、鶏500羽ほどを飼い、鶏糞を肥料として利用していた。採れた穀類や野菜は、当時荻窪にあった卸市場に納めていた。まだ私が17、8歳の頃、先輩が私を誘ってくれ、朝4時ごろに何人かが集合して、荻窪まで2時間半ほどの道のりを自転車にリヤカーを連結して納入したものだ。立川にも卸市場はあったが、荻窪のほうが高く買ってくれたと記憶している。その頃は、車のある家が多くはなく、皆若く元気に先輩に道案内いただきながら青梅街道をリヤカー引っ張っていった。昭和40年代になると3輪オートバイでさらに足を延ばして築地や神田まで出かけ昼には家に戻り、野菜を収穫、用水で水洗い、出荷作業の準備。市場では「いい野菜だ！どんどん頼むよ！」ともちあげられるのがうれしかった。国分寺の先輩からいろいろ教えてもらったりしながら、農作業を家族5、6人でやり、朝早くから日暮れまでの一日を苦しいと思ったことはない。人の結びつきがありがたかったし、大事だとつくづく思う。人との結びつきといえば、いろいろある。9月にはお施餓鬼（オセガキ）といって、無縁仏や戦地で散ったかたの供養をし、人を思う心を養う風習もあった。また、御嶽講では、講の代表を抽選で決め、代表が日帰りで御嶽山に詣で、御嶽神社の聖水を運んでくる雨ごい行事を皆で行っていた。私が青少年育成として毎年神明社で行っている“ドンド焼き”も、青少年がこうした行事をつうじて、歴史を肌で感じ、人との結びつきを大事にする意識を持つよう願って続けているものだ。地域の結びつき、絆があって、楽しく農業にまい進できていると思っている。こうした結びつきを大事にしたいものだ。



野中明さんが支援する「ふれあい農園」

## 用水美化活動実績

7月2日（木）史跡恋ヶ窪村分水、同11日（土）と同27日（月）にヤマモモ公園と公園脇用水路、8月3日（月）六小通り用水路を整備。8月は夏休みとし、9月9日（水）立川市若葉町との境にある用水路、同17日（木）ヤマモモ公園と脇の用水路、同26日（土）雨のため中止。7月より9月末まで会員の自発的整備を20回ほど実施。

季節の用水：キバナコスモスが咲き乱れる用水

妙法寺裏手にある北町地域センター脇に、砂川用水路の跡地があります。道路から西へ50mほど奥まで3m幅の用水路跡地は今、オシロイバナ、ハナトラノオ、ヤブミョウガなどが咲き、奥にキバナコスモスがびっしりと群生しています。また、東京餃子の駐車場裏手にあるヤマモモ公園脇の砂川用水護岸もキバナコスモスが両岸に咲きほこり、水路を覆いつくすほどです。

北町地域センターは利用者協議会の皆さんが草花を持ち寄り移植したものです。両用水路のキバナコスモスは昨年護岸に10mほど蒔種したのですが、今年は自然に増殖しました。11月末ごろまで、さらに黄色溢れる写真のような空間を創り出しつづけてくれるでしょう。

護岸を整備することは心休まる空間を創り出すこと、と私たちの会は考えています。

最低月1回は整備する計画ですが、コロナと熱中症の関係で作業が遅れ気味です。しかし、美しい花々は作業に楽しさと癒しを運んでくれています。



ヤマモモ公園脇用水路



北町地域センター用水路跡

用水今昔：国分寺市の用水が果たした役割

用水の役割は時代によって変化しました。

| 村      | 新田開発前<br>1678年（延宝6） | 元文元年検地<br>1736年 |
|--------|---------------------|-----------------|
| 国分寺村   | 351 石               | 391 石           |
| 恋ヶ窪村   | 70                  | 143             |
| 旧村合計   | 421                 | 534             |
| 野中新田   | —                   | 306             |
| 榎戸新田   | —                   | 293             |
| 本多新田   | —                   | 151             |
| 戸倉新田   | —                   | 133             |
| 内藤新田   | —                   | 不詳              |
| 平兵衛新田  | —                   | 不詳              |
| 中藤新田   | —                   | 56              |
| 上谷保新田  | —                   | 46              |
| 新田8村合計 | —                   | 985             |
| 10村合計  | —                   | 1519            |

各村の検地による収穫高査定

江戸期の1657年（明暦3）、国分寺村、恋ヶ窪村・貫井村に田用水として用水路が玉川上水から分水されました。これにより、それ以前の1650年（慶安3）に国分寺、恋ヶ窪村で158石だった石高は、1678年（延宝6）には左表のように421石と倍増しました。その後、1722年（享保7）幕府の新田開発奨励の号令後、国分寺市域内の新田開発が始まりました。1729年（享保14）以降、野中新田分水（現砂川用水）などの5分水が現市域内に生活用水として通水されました。新田開発以前は荒れ地であった武蔵野台地上の土地は、一部史料が欠けていますが、元文元年検地の結果、左表のように新田8村の石高合計は985石と査定され旧村（国分寺村、恋ヶ窪村）の倍近いものとなったのです。他方、市史によれば、現国分寺市域の江戸期の平均的人口は新田8村で203戸と想定され、旧村の129戸の倍近い入植者があったとのこと。新田開発に携わる人が定着できる社会基盤として、用水がその役割を果たしたといえるでしょう。

その後、明確な時期は不明ですが、村に共同井戸が掘られ、次第に井戸が飲料水として利用され、用水はその他の生活用水として昭和30年代まで収穫物の水洗いなどに利用されていたそうです。内藤豊三郎さんの著書「国分寺村の用水路について」には、「昭和31年（1956）12月1日砂川町外七市町村用水土地改良組合が解散し、用水は完全になりました」と記されています。その後水道の普及と都市開発により、用水路は姿を消し、今は、砂川用水のみ通水しています。用水を見るにつけ、国分寺市域内8本の玉川上水からの分水が、現在の国分寺市の生活基盤をつくり上げてきたという歴史的役割とこれからの用水の在り方を私たちに問いかけているように思えるのです。

今後の美化活動予定

新型コロナウイルス感染予防で作業予定が変更となる可能性があります。美しい用水の会のホームページ（<http://bunji-yosui.org/>）の活動予定をご覧ください。原則は、毎月第1月曜日、第2・第4土曜日に地図にある9か所のいずれかで美化活動を行っています。気楽にご参加ください。長靴をご用意いただければ、用具はあります。

「美しい用水の会」会員募集

「美しい用水の会」は、砂川用水美化活動と、重要史跡：恋ヶ窪村分水の美化活動以外にも会員一人ひとりが新田開発史の研究、草花生育、イベント企画なども自由に行い、会員相互に支援しています。年会費は¥500。また、定期的活動ではない、会員各自が気付いた時に草を刈ったり、ごみを撤去したりする作業も行っています。このまちの用水、景観、新田開発史を楽しく次の世代に伝えていきたいと思います。ふるって参加ください。

ご連絡は090-1993-5903まで、会の詳細はURL（<http://bunji-yosui.org/>）をご覧ください。